



## 平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年1月28日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <http://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 平成28年2月10日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無： 無

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績（平成27年4月1日～平成27年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	80,178	4.7	2,895	37.1	2,898	12.8	2,050	32.8
27年3月期第3四半期	76,569	0.4	2,111	82.7	2,568	55.7	1,543	41.1

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 1,943百万円 (6.6%) 27年3月期第3四半期 1,823百万円 (69.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	84.67	ー
27年3月期第3四半期	63.63	ー

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第3四半期	68,807	37,436	54.4	1,558.24
27年3月期	68,001	36,293	53.4	1,495.82

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 37,436百万円 27年3月期 36,293百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	ー	7.50	ー	8.50	16.00
28年3月期	ー	8.00	ー		
28年3月期(予想)				8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

平成27年3月期第2四半期末配当金には記念配当1円00銭、平成27年3月期期末配当金には記念配当2円00銭が含まれています。

### 3. 平成28年3月期の連結業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	109,000	3.9	4,000	19.0	4,000	3.5	2,400	22.1	99.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

連結業績予想の修正につきましては、本日（平成28年1月28日）公表いたしました「平成28年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期3Q	27,700,000株	27年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	3,674,920株	27年3月期	3,436,749株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期3Q	24,212,898株	27年3月期3Q	24,264,841株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中であり、

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○ 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新興国経済の減速懸念や中東地域の不安定化など景気下振れリスクがあるものの、円安を背景とした企業業績の改善に伴い雇用や所得環境の改善が見られるなど、足取りは重いなながらも緩やかな回復基調で推移いたしました。

低価格志向とこだわり志向の二極化が進む中、菓子・飲料・食品業界では消費持ち直しの傾向が一部に見られたものの、実質賃金の改善が進まないことや物価上昇への懸念などから全体としては慎重さが残る購買動向が続きました。

このような中、当社グループは一貫して食品製造企業として、安全・安心・安定および健康を基とした品質保証第一主義に徹し、実質価値の高い商品と消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。具体的には、女性の社会進出や単身・シニア世帯の増加などによるニーズの変化や、メリハリを付けた選択的な消費志向への対応により、消費者が求める価値の実現に機敏かつ柔軟に取り組み、きめ細かい店頭フォロー活動や地域のニーズに合わせた企画提案型の営業活動、品揃えの強化と付加価値を高めた魅力ある商品開発などの活動を推進してまいりました。

その結果、ファミリーサイズ商品やロングセラー商品、パーティ商品が好調に推移したことと、ポップコーン商品や板チョコレート商品に好評をいただいたことなどから、ビスケット品目、チョコレート品目、スナック品目などが伸張し、売上高は前年同期を上回りました。

利益面では、売上高の伸張とコスト削減、経費の効果的使用に取り組んだことなどにより、営業利益、経常利益は前年同期を上回りました。また、生産工場の再構築に伴い減損損失および一部の移設関連損失を計上しましたが、投資有価証券の売却益などにより親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期を大きく上回りました。

## 営業品目別の概況

菓子の合計売上高は76,040百万円(対前年同期比105.2%)となりました。

菓子は、ビスケット、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレート、チューインガムなどの品目を展開しています。

「濃厚チョコブラウニー」の品揃えを強化したパーティ商品や「大人プチ」シリーズ、フルーツソーダ味を新たに加えた「フェットチーネグミ」シリーズ、「チーズ&キャラメルポップコーンミックス」を発売したポップコーン商品などに大変好評をいただきました。

また、季節に合わせて、いも・栗フェア、ホワイトフェア、いちごフェアなどを企画し需要期での拡販を図りました。さらに、映画のキャラクターをデザインした商品やタイアップ商品など積極的な企画展開にも取り組みました。

生チョコレートを閉じ込めた大粒のトリュフチョコレートや、香ばしい焦がしバターのコクが広がるブルドミルクチョコレートなど特徴のある商品を発売するとともに、「純金のアルフォートミニが当たる！」消費者キャンペーンを実施したほか、アルフォートとマシュマロで作る“かんたんスマア”の新しい食べ方を提案したテレビコマーシャルを放映するなど活性化に取り組みました。

ファミリーサイズ商品やロングセラー商品が好調に推移したほか、板チョコレート商品群や袋チョコレート商品群、袋スナック商品群などが伸張したことに加え、夏からの暑さが急激に和らぎ秋が訪れた天候要因にも恵まれて、全体では前年同期を上回りました。

飲料・食品・その他の合計売上高は4,137百万円(対前年同期比97.0%)となりました。

飲料・食品では、ディズニーキャラクターをデザインした天然水を展開したほか、コナツツミルクを使用した商品の品揃えを強化し健康志向を背景に好評をいただきました。また、粉末ココア商品「まるやかでおいしいミルクココア」や粒状ゼリー入りのドリンクゼリー「粒ジュレ」に新味を発売しました。機能性食品は、栄養調整食品「スローバー」シリーズの一部をリニューアルし拡販に努めましたが、全体では初夏にかけての低温や夏場の暑さが長く続かなかつた影響を受けて、ドリンク商品が伸び悩んだことなどから前年同期を下回りました。

その他品目では、通信販売事業は、魅力的な品揃えの充実と付加価値を高めた商品展開により、お客様の利便性と満足度の向上を図り、顧客の拡大とリピーターの増加に取り組みました。

自動販売機事業は、多様な商品を取り扱うプチモールの設置環境の選択による効率性の向上に取り組んだほか、台数の増加に伴って伸張しました。

また、酒類販売事業は、クラフトビールへの関心が継続する中、流通での取り扱い量が大きく増え、既存品やギフト商品などに加え受託生産や輸出も伸張したことから前年同期を大きく上回りました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は80,178百万円(対前年同期比104.7%)、営業利益は2,895百万円(対前年同期比137.1%)、経常利益は2,898百万円(対前年同期比112.8%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,050百万円(対前年同期比132.8%)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

総資産は68,807百万円となり、対前連結会計年度末比806百万円の増加となりました。これは主に、季節変動の影響による受取手形及び売掛金の増加があったことと、投資有価証券の減少があったことによるものです。

負債は31,371百万円となり、対前連結会計年度末比336百万円の減少となりました。これは主に、季節変動の影響による支払手形及び買掛金の増加があったものの、前連結会計年度に取得した有形固定資産の未払金の減少があったことと賞与の支給および法人税等の支払があったことによるものです。

純資産は37,436百万円となり、対前連結会計年度末比1,143百万円の増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上と、自己株式の取得があったことによるものです。

### (連結キャッシュ・フローの状況に関する説明)

営業活動によるキャッシュ・フローは4,020百万円の収入(前年同期3,936百万円の収入、対前年同期比102.1%)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益3,204百万円、減価償却費2,558百万円があったことと、法人税等の支払額1,739百万円があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは2,087百万円の支出(前年同期3,519百万円の支出、対前年同期比59.3%)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出3,625百万円があったことと、投資有価証券の売却による収入1,592百万円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは1,273百万円の支出(前年同期869百万円の支出、対前年同期比146.5%)となりました。これは主に、配当金の支払額395百万円と自己株式の取得による支出400百万円などがあったことによるものです。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前第3四半期連結会計期間末に比べ1,994百万円増加し、13,813百万円となりました。また、前連結会計年度末に比べ643百万円の増加となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成27年5月1日の「平成27年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日(平成28年1月28日)公表いたしました「平成28年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### 会計方針の変更

##### (企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)  
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,015	13,668
受取手形及び売掛金	12,549	13,894
有価証券	254	144
商品及び製品	3,353	3,824
仕掛品	515	446
原材料及び貯蔵品	2,998	2,804
その他	1,495	1,352
貸倒引当金	△39	△22
流動資産合計	34,143	36,114
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,642	10,451
機械装置及び運搬具(純額)	8,308	7,895
その他(純額)	7,330	7,390
有形固定資産合計	26,280	25,738
無形固定資産		
のれん	1,663	1,577
その他	454	408
無形固定資産合計	2,117	1,985
投資その他の資産		
その他	5,458	4,969
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	5,458	4,969
固定資産合計	33,857	32,693
資産合計	68,001	68,807

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,928	12,038
短期借入金	1,720	1,720
未払法人税等	1,241	600
賞与引当金	1,000	353
返品引当金	50	55
その他	10,705	9,682
流動負債合計	24,647	24,450
固定負債		
長期借入金	330	179
役員退職慰労引当金	210	225
退職給付に係る負債	5,518	5,563
資産除去債務	9	9
負ののれん	24	23
その他	967	918
固定負債合計	7,060	6,920
負債合計	31,707	31,371
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	7,628	7,628
利益剰余金	28,599	30,249
自己株式	△539	△939
株主資本合計	36,724	37,974
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	850	568
為替換算調整勘定	△908	△813
退職給付に係る調整累計額	△372	△292
その他の包括利益累計額合計	△431	△537
純資産合計	36,293	37,436
負債純資産合計	68,001	68,807

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	76,569	80,178
売上原価	45,248	47,075
売上総利益	31,321	33,102
販売費及び一般管理費	29,209	30,207
営業利益	2,111	2,895
営業外収益		
受取利息	11	10
受取配当金	63	57
負ののれん償却額	1	1
為替差益	372	—
その他	63	102
営業外収益合計	512	172
営業外費用		
支払利息	29	24
為替差損	—	123
減価償却費	15	8
その他	11	12
営業外費用合計	55	168
経常利益	2,568	2,898
特別利益		
固定資産売却益	4	0
投資有価証券売却益	39	1,129
特別利益合計	44	1,129
特別損失		
固定資産処分損	13	40
減損損失	4	368
移設関連損失	—	381
その他	0	32
特別損失合計	18	823
税金等調整前四半期純利益	2,593	3,204
法人税、住民税及び事業税	969	1,104
法人税等調整額	79	49
法人税等合計	1,049	1,154
四半期純利益	1,543	2,050
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,543	2,050



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
四半期純利益	1,543	2,050
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	273	△281
為替換算調整勘定	△54	95
退職給付に係る調整額	60	79
その他の包括利益合計	279	△106
四半期包括利益	1,823	1,943
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,823	1,943
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,593	3,204
減価償却費	2,382	2,558
のれん償却額	85	85
受取利息及び受取配当金	△75	△68
負ののれん償却額	△1	△1
支払利息	29	24
為替差損益(△は益)	△353	108
投資有価証券売却損益(△は益)	△39	△1,129
固定資産処分損益(△は益)	9	40
減損損失	4	368
移設関連損失	—	381
売上債権の増減額(△は増加)	△1,663	△1,350
たな卸資産の増減額(△は増加)	△361	△211
仕入債務の増減額(△は減少)	1,749	2,112
賞与引当金の増減額(△は減少)	△650	△646
その他	1,606	313
小計	5,315	5,790
利息及び配当金の受取額	73	66
利息の支払額	△29	△24
移設関連損失の支払額	—	△73
法人税等の支払額	△1,423	△1,739
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,936</b>	<b>4,020</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△3,716	△3,625
有形固定資産の売却による収入	113	10
投資有価証券の取得による支出	△73	△81
投資有価証券の売却による収入	228	1,592
その他	△71	16
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△3,519</b>	<b>△2,087</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△234	△150
リース債務の返済による支出	△298	△327
配当金の支払額	△334	△395
自己株式の取得による支出	△1	△400
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△869</b>	<b>△1,273</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	29	△16
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△423	643
現金及び現金同等物の期首残高	12,242	13,170
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,819	13,813

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。